





人々と響き、価値を奏でる
能登ヒバのブランドづくり

石川の県木“能登ヒバ”を使った 楽器プロジェクト「ATENOTE」始動

フルタニランバー(株)は創業120年の老舗の木材流通会社です。令和元年に5代目社長となった古谷隆明さんは就任の際に、従来の木材流通業にとらわれない積極的な事業創出によって地域社会に貢献することで企業価値を高めていこうと考えたそうです。「これまでたくさんの外国産材を販売してきた自分たち木材流通業は、需要に応じた結果とはいえ現在の

里山の状況をつくった一因。それならば地元石川の県木である能登ヒバのブランディングと利活用について、川上から川下で関わって目的を共有するプロジェクトを立ち上げよう」と古谷さんは決意したそうです。能登ヒバは香り、強度、防水や防蟻性が強い優秀な木材です。しかし生産量が少なく漆器や水回り材などで石川県内を細々と流通する程

度の経済規模でした。

「能登ヒバの丸太はスギより成長が2倍遅いののに十分な価格での売買がされていない。また製材所の減少や林業関係者の担い手不足により相場の低迷が懸念される。このままでは産地全体が盛り上がっていかないと感じた古谷さんは、能登ヒバの価値向上のため、新たな活用シーンを創造する楽器プロジェクトを企画しました。その名も「ATENOTE」(アテノート)。ATEとは能登ヒバの古い呼称「あて」にちなんだそうです。

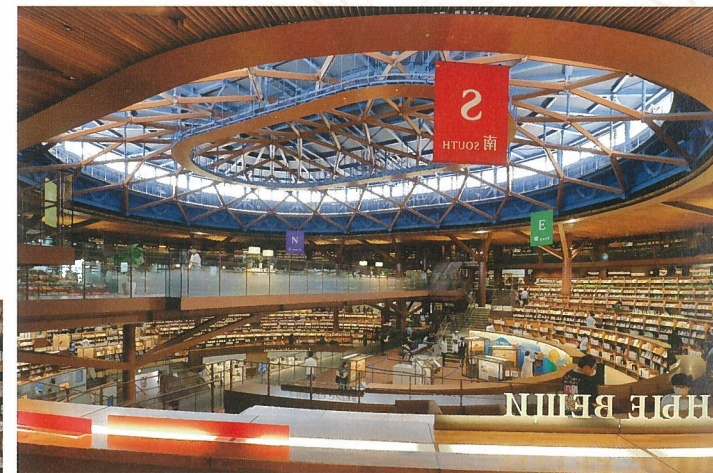
一昔前まで楽器はマホガニーやローズウッドなど硬質な広葉樹材でつくられていました。ところが、過剰な伐採で木材量が枯渇し、楽器業界では代替材が求められていました。「能登ヒバは強度があります。とはいえギターネックなどはさらに強度が必要なので圧縮加工してメイプル以上の硬度に仕上げました」と古谷さん。ATENOTEの話題は楽器メーカー、さらにはミュージシャンの間で徐々に広まり、地道な楽器の提供活動を通して音質についても広く支持を集めたことで、大手楽器メーカーや老舗和楽器店にも扱われるようになりました。

震災の不幸をチャンスに変える

2024年1月1日に発生した能登半島地震では能登ヒバの産地や製材所が多く被災しました。フルタニランバーは支援物資を提供するだけでなく、被災した製材業者に自社工場を提供するなど能登の木材産業を守る活動に尽力しました。「震災は大きな不幸です。でも日本全国から能登ヒバをもっと使いたい

という応援がたくさん来ました。僕らは逆境を言い訳にこのチャンス逃してはいけない」と古谷さん。ATENOTEはフジロックフェスティバル'24に出展を果たすなど、若きリーダーの強い信念が人々の共感となって響き、能登ヒバの価値を奏でる活動へ広がろうとしています。

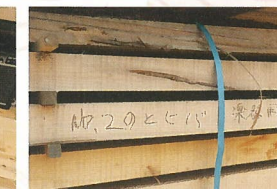
石川県立図書館の書棚にはフルタニランバーが納品した能登ヒバ材が多く使用されている



フルタニランバー(株)の
代表取締役社長 古谷隆明さん



アコースティックギターは
相性抜群



小・中径木の価値を高める
ことが期待される楽器材



東京都

<p>moc tion.jp</p> <p>MOCTION 検索</p> <p>MOCTION 公式サイト</p>			 MOCTION 公式SNS			